

爬虫類

爬虫類はヘビ類2科4種、トカゲ類2科2種、カメ類2科2種を確認した。

ヘビ類はマムシ、アオダイショウ、ヤマカガシ、ヒバカリの4種であるが、いずれも個体数は少ない。中でも一番よく見られたのはアオダイショウで、各調査地で確認できている。ヘビ類は高次捕食者に分類されるが、最近の個体数の減少は著しい。筆者はかつてこの4種の他に、シマヘビ、ジムグリ、シロマダラを市内で確認している。ヘビ類の減少は最近、イノシシ、アライグマ、ホンドタヌキなど大型哺乳類が里地で増殖して、捕食による圧力が大きいと考えられる。

トカゲ類は2科2種でニホンカナヘビ、ホンドトカゲである。カメ類は外来種のクサガメとミシシッピーアカミミガメを確認した。調査外では都幾川でスッポンも目撃している。

クサリヘビ科 ニホンマムシ

国内に分布する代表的な毒ヘビであるが、性質はおとなしく、近くを通っても攻撃してくることは稀である。地上にいて保護色をしているので、見逃してしまいそうになる。近くに居ると、まったく動かずにいるが、その場を離れるとすぐに移動してすぐに隠れる。身体は短く、成体になっても40～50cm程度の大きさ、銭形模様の斑紋は美しい。林地で時には出会うが、あまり多くはない。

調査での出現種			
群No	分類群	科名	種名
1	爬虫類	カナヘビ科	ニホンカナヘビ
2		クサリヘビ科	ニホンマムシ
3		スキング科	ホンドトカゲ
4		ナビヘビ科	アオダイショウ
5			ヤマカガシ
6			シロマダラ
7			ヒバカリ
8		ヌマガメ科	クサガメ
9			ミシシッピー アカミミガメ



ニホンマムシ



ニホンマムシ頭部



アオダイショウ



ナミヘビ科 アオダイショウ

市内に生息するヘビ類の中で、一番普通に見られる。大きい個体では150cmにも達する。敏捷に活動し、地上から樹上まで多くの環境に見られる。ネズミ類や鳥類の巣や親を襲って捕食する。水にも潜るので、ウナギのようだが、川で出会うと異様でびっくりする。



ヤマカガシ



ナミヘビ科 ヤマカガシ

市内では以前には多く見られたが、最近は個体数が減少し、あまり見かけなくなった。臆病で人が近寄るとすぐに逃げて隠れる。大きいものでは100cmに達するが、そんな大きな個体に最近はお会いしたことはない。近年になって知られてきたが、奥にある牙歯に強力なコブラと同じ出血毒を持っている。

ナミヘビ科 シロマダラ

山地に住む小型の種で 50cm くらいになる。個体数は少ないのと、夜行性のため目撃例は限られる。横縞模様が美しく、おとなしく、攻撃的ではない。2017 年の 9 月 3 日に市民の森で、水抜きのパイプ穴に隠れていたのを発見した。



シロマダラ

カナヘビ科 ニホンカナヘビ

普通種で市内の各地に分布し、住居地内の庭などでも見られる。成体でも 20cm くらいのおおきさで褐色をしている。素早く敏捷に活動し、昆虫などを捕食している。



ニホンカナヘビ

スキク科 ホンドトカゲ

成体では 20cm くらいになり、雌は光沢のある赤茶色をしているが、雄は青色の混じった光沢のある綺麗な体色をしている。林地から農耕地、住宅地まで広く分布している。



ホンドトカゲ



ニホンヤモリ

(参考)

ヤモリ科 ニホンヤモリ

調査では記録は無かったが、市内の民家には生息している。昼間は物陰に隠れているが、夜になると活動を始め、窓や玄関の明かりに集まる虫を食べにやってくる。なんか愛嬌があって飼ってみたいくなるような気持ちになる。夜は昼間と違って、素早く動き、近寄るとすぐに逃げてしまう。



クサガメ

ヌマガメ科 クサガメ

かなり前に帰化した種で、平地の湿地に生息する。市内での自然分布はよくわからない。滑川で生息が確認できた。昔は夜店でも売られていたこともある。荒川の下流部の浦和市（現さいたま市）秋ヶ瀬の湿地では1990年代に自然繁殖をした多くの個体が見られたのを記憶している。甲羅にある亀甲模様は黄色で目立つ。体からの分泌液が臭いことから名前がついている。



ミシシippiaカミミガメ

ヌマガメ科 ミシシippiaカミミガメ

外来種で、名前の通り北アメリカの原産である。頭の耳の部分が赤く、よく目立つ。以前は夜店などでミドリガメとして大量に売られていた。成体では30cmくらいになり、飼いきれなくなった個体が川に放されたようで、現在は市野川、滑川、市内各地の溜め池などでよく見られる。自然状態で繁殖しているようで、特定外来種に指定されているものの、個体数は増加している。